

年間第7 主日（主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

（一）聖書朗読

マタイ5:38-48

悪人に手向かってはならない。誰かがあなたの右の頬を打つなら、左の頬を向けなさい。求めるには与えなさい。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくないものにも雨を降らせて下さるからである。あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全なものとなりなさい。

（二）カテキズムの響き（カトリック教会のカテキズムの番号；YOUCAT #396-398）

#1693, 1825, 2262-2267, 2302-2303

キリストは常に御父の喜ばれることを行い、同様に、キリストの弟子は天の父が完全であられるように完全なものとなるよう招かれています。（マタイ5:48）キリストは私たちにご自分と同じように敵をも愛し、もっとも遠くにいる人の隣人となり、キリストを愛するように、幼い子や貧しい人々を愛することを求められます。

主は山上の説教の中で、「殺すな」（マタイ5:21）という掟を確認した。命を守るために、個人及び社会の正当防衛は認められます。自分自身に対する愛というものは、生きる権利を守ることです。正当防衛は単に権利であるばかりではなく、他人と家人の生命に責任を持つ者にとっては重大の義務となります。共同善を防衛するには、不正な侵犯者の有害行為を封じる必要があります；合法的な公権は違反の重さに比例した罰を科す権利と義務をもって、違反者に対する加療を目的としますそれに、「殺すな」という掟は、心の平和を教え、残忍な怒りや憎悪が罪であることを明らかにします。悪事を働いた者に対して、仕返しを行うことは赦されませんが、悪習の矯正と正義のために償いを科すことは推奨されます。熟考の上で隣人に大きな危害を加えることや、意図的な憎しみは愛とは正反対のものです。それで、他人の不幸を望むなら、罪となる。キリストは、「兄弟に腹を立てる者は、誰でも裁きを受け……敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」（マタイ22:22、44-45）。

（三）カテキズムの学び（『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号）

#411、595 第五の掟：「殺してはならない」という意義

466-467、 神聖な命を尊重する。人格の尊厳と権利を守る。社会正義を保障する。

480 心の平和を求める。怒りと憎悪を退ける。

祈り：命の道を示して下さる父よ、貴方は旧約の民にお与えになった律法を御子キリストの生涯によって完成されました。教会に集う私たちは、聖霊による教会の教えと知恵をいただき、神への愛、隣人への愛を生活の中で実践することが出来ますように。私たちの主イエス・キリストによって、アーメン。